

「佛母寺だより」は無料、不要の方は一報ください

佛母寺だより 第12号

発行・佛母寺 〒299-1601 富津市田倉942-13

住職・松原覚樹

Tel:0439-37-2336 Fax:0439-37-2378

上記につながらない時は Tel:03-3451-1853; Fax:03-3451-6094

Website:www.butsumoji.com

残暑お見舞い申し上げます。

檀信徒の皆様におかれましては如何お過ごしでしょうか。

世界中で、戦争、紛争、飢饉、貧困のニュースが後を絶たず、常に様々な諸課題を抱える世界情勢がメディアを賑わせています。台風やハリケーンなどの被害も大変なものです。平穏、無事、癒しを念願します。

出穂の時期となり、だれもが心配するのが放射線の影響です。冷静な対応で風評被害などないことを祈っています。

さて、先月の施餓鬼法要には猛暑の中、多数ご参拝頂き誠にありがとうございました。当日は京都・妙心寺山内の靈雲院住職の則武秀南老師も法要にご出頭いただきました。秀南老師は佛母寺開山・山田無文老大師の4人のお弟子さんのお一人です。目下、台湾での伝道活動を大変盛んに行われています。

閑栖玉峰さんも法要に出頭いたしました。これから少しずつ、体を慣らしながら無理はしないように、鹿野山に来ていただけます。皆さんにお会いできますのを楽しみにしています。

今年の施餓鬼は総勢11名の僧侶が出頭いたしました。この数は近辺ではないそうです。来年はもう少し増えるような声もすでに聞こえてきました。

この夏といえば、ロンドンオリンピック。私のいるUCバークレーからも30人ほど出ていました。そのうち17人がゴールドメダルを取りました。つい、その中に自分の授業を取った学生がいないかどうか探しました。

さて、もうお彼岸のご案内をするときとなりました。多数お参り下さいますようご案内申し上げます。

文末になりましたが、皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます

松原覚樹 合掌

佛母寺秋彼岸会のご案内

以下の通り、秋彼岸会を厳修致します。多数ご来山下さいますよう、謹んでご案内申し上げます。彼岸会は縁のある全ての精霊に供養し感謝する日です。もちろん、水子供養ならびにペット供養もすべて含まれます。

*** 9月23日（日）午前11時より 秋彼岸会法要了法話**

*** 一般檀信徒供養料：6,000円**

*** 塔婆代：3,000円（一本：連名は二名まで）**

*** 墓花：2,000円**

塔婆・墓花を建てられる方は、同封のハガキ、もしくは電話やFAXまたはメールでお申し込み下さい。

* 当日の秋彼岸法要には出席されないけれども、お塔婆をご希望される方は、お墓参りされる時までにご利用致しますので、お早めにお申し込み下さいますようお願い致します。その際、お参り予定日もご記入願います。秋彼岸のお塔婆は9月30日まで残しています。法要に欠席された方も墓参りに来山の折、各自でおたて下さい。

墓地掃除サービスのお知らせ

佛母寺で法要を申込まれた檀信徒のみを対象として、簡単なお掃除とお花、お線香をお供え致します。法要当日まで来山できない方はどうぞご利用ください。

- 1) 簡単なお掃除とお花、お線香のお供え。¥10,000（消費税込み：お花・お線香代込み）
- 2) 簡単なお掃除のみ。¥8,000（消費税込み）

* 簡単なお掃除とは、お墓周りの枯葉・雑草・ゴミの収集・花立の掃除を致します。
* 墓石の水拭きは致しません。

佛母寺ミニ法話（白隠：夜船閑話編）

偶々雲水の徒侶、竊かに伝写し来るあるも、秘重して人をして見せしめず、天瓢（てんぴょう）むなしく櫃（ひつ）におさめて匿（かく）したるが如し。

修行者たちの中にはたまたまですけれども、わずかに「夜船閑話」を書き写した者もいますが、秘重して他人に見せたがろうとしません。まるで天国でとれたヒョウタンをふたのついた箱の中にかくしているようなものです。

願わくば是を梓に寿（いのちな）がふして以て其渴を慰せん。

願わくは自分としましては「夜船閑話」上梓して多くの方々の渴望にこたえたいのです。梓の木は版木の良材として知られ、古来より木版にする場合、梓の木に文字を彫りつけました。それにより、版本印刷して書物を出版するとき、上梓という言葉を用いました。一方、黄檗宗の鉄眼和尚は版本に吉野山の桜を用いています。

「鉄眼は一生に三度、一切経を刊行せり」といわれています。一七世紀半ばすぎに一切経出版という大事業を成し遂げた鉄眼和尚は広く各地を歩き出版資金を集め出版に着手するものの、たまたま大阪出水。多くの犠牲者をまのあたりにした鉄眼和尚は、集めた資金全てを救済として喜捨、またゼロから出発しました。そして、数年後、資

金が集まり、さて事業再開というときに、近畿地方に大飢饉が発生したのです。鉄眼和尚はまた資金を救済に投入、多くの人々を救ったのです。鉄眼和尚の心は「我が一切経の出版を思ひ立ちしは仏教を盛にせんが為、仏教を盛にせんとはするは、ひっきょう人を救わんが為なり喜捨を受けたる此の金、之を一切経の事に費やすも、うゑたる人々の救済に用ふるも、帰する所は一にして二にあらず。一切経を世にひろむるはもとより必要の事なれども、人の死を救うは更に必要なるに非ずや」にあったからでした。一切経が完成したのは思い立ってから三回目の天和元年（1681）、鉄眼和尚五十二歳の時のことでした。一切経六千九百五十六巻の大出版で世に鉄眼版とよばれています。今、黄檗山、万福寺に保存されています。鉄眼和尚の話は、今ではそれこそ「むなしく櫃におさめて匿したるが如し」です。

「寿がふして」は寿命が長いということから、末永く世の中に知らしめる、との意味です。

聞く、老師常に人を利するを以て楽しみ玉ふ。

自分が聞いておりますには、白隠老師は人のために生きることが楽しみだと常々おっしゃっておられると。人を利するということは、利他。

若（もし）夫（それ）人に利あらば、師豈に是を吝（お）しみ玉はんやと。

もしも利他ということであるならば、白隠禅師はどうして出版上梓することを惜しむでしょうか。惜しまれるなどと考えられるわけがございません、とは「夜船閑話」の出版を催促する京都の書肆、小川源兵衛さんのことばです。

二虎（にこ）含み来て師に呈す。

白隠禅師の侍者二名が、小川源兵衛の心を含んで禅師のもとにやってきました。さて、二虎です。潭州華林に善覚禅師がありました。馬祖禅師に嗣法しています。常に錫を持ち夜間、麓を歩いておりました。それも七歩歩いては一たび錫をふるっては一回、南無観世音と観音の名号を称えました。ある日、観察使の裴休なるものが善覚禅師をたずね、善覚禅師はいつお独りのようですが、侍者はおるんですか、おらんですかと口を開いたものです。すると善覚禅師は、侍者なら二人おるわい、と言いました。どこにおるんですかと裴休が申しますと善覚禅師は「大空」「小空」と侍者を喚びました。すると、庵のうしろから、なんと虎が二頭、姿を現したのですから裴休はおどろき、おそれせんりつしました。善覚禅師は二虎に向かっていいました。「今お客さんがいらしておる。さあ、向こうに往っていなさい。」二虎はほえながら、帰ってゆきました。裴休は善覚禅師に問うていいました。善覚禅師はどうしてこのように二虎を感得することができたのですかと。すると善覚禅師はしばらくして応じました。「会すやと。曰く会せず」と。そしてまたいわれました。「山僧常に観音を念ず」と。「師良久しくして曰く会す麼。曰く、不会。」公案です。「会か不会か。」二虎については善覚禅師の故事にならったことです。

なお潭州華林の善覚禅師については「景德伝登録」巻八（「国訳一切経」史伝部十四、p. 199：大東出版社）を参照していただきたいと思います。

師微々として笑ふ。

白隠禅師はニッコリと笑い、京都の書肆、小川源兵衛さんの申出を快諾されました。

（つづく）

お知らせ

- ◎ 最近特に、業者と提携して寺院に住せず修行をしたかどうかよく分からないアルバイト僧侶なる者が横行しています。派遣僧侶です。佛母寺のお檀家さんまたは佛母寺墓地に埋葬されるお檀家さんには、佛母寺の住職が戒名を受け、佛母寺の住職がお通夜・お葬式・その他一切の法要を責任を持って執り行わなければなりません。もしも、お檀家さんでお葬式を出す場合、葬儀屋さんとは日程を決める前に、必ず佛母寺にご一報お願い致します。出来るだけ調整をして、お通夜・お葬式を勤めさせていただきます。また、日程をすでに決めてしまった場合、できるだけ調整しますが、やむを得ない場合、有縁の臨済宗僧侶を紹介させていただきます。また、千葉県以外でお葬式を出す場合、臨済宗の僧籍をもつ僧侶を紹介させていただきます。葬儀の形態、場所にかかわらず、当寺のお檀家さん・当寺墓地に埋葬されるお檀家さんがお亡くなりになった場合、葬儀屋さんとは日程を決める前に、必ず佛母寺にご一報お願い致します。東京でお通夜・お葬式を出す場合、葬儀屋さんを紹介することもできます。
- ◎ 佛母寺墓地について一言。個人墓地内の草取り等の清浄・清掃管理については、その墓地使用者の責任範囲です（宗教法人佛母寺所有墓地使用規定第8条明記）。ご自身で草取り等をしていただきますようお願い致します。なお、墓地使用規則の定めは、当寺責任役員会の決議を経て、より明確に明記する為に近い将来に改訂されることを検討しています。
- ◎ 佛母寺公式ウェブサイトはもうご覧になりましたか？仏事法要申込、ご祈願受付、水子供養、ペット供養、墓地、永代供養塔妙峰殿に関することなど、何でもお気軽にご質問・ご相談ください。 **website: www.butsumoji.com**
- ◎ お電話での寺務所受付は、9:00～16:30 までとさせていただきます。16:30 以降の電話はすべて龍源寺（03-3451-1853）へ転送されます。
- ◎ 今年、年回が当たっておられます方は、ご法事希望の日時が決まりましたら、お電話・ファックス、またはウェブサイトの「お問い合わせ」からメールにてお問い合わせ下さい。

おもな行事	
春彼岸会	3月18日(日)
妙峰殿施餓鬼会	7月第2日曜日
施餓鬼会	8月4日(土)
秋彼岸会	9月23日(日)
除夜鐘	大晦日

平成24年 正当年回表	
1 周忌	平成23年
3 回忌	平成22年
7 回忌	平成18年
13 回忌	平成12年
17 回忌	平成8年
23 回忌	平成2年
27 回忌	昭和61年
33 回忌	昭和55年
37 回忌	昭和51年
50 遠年忌	昭和38年